

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. カリキュラムマップに基づいて、教員組織の編成方針を策定する。	→教員組織編成方針の策定(2013年度までに)	C	C	C	B	B
2. 神学研究科内規に基づいて、教員組織を検証する制度を整備する。	→既存の人事委員会における検証および研究科委員会に対する報告書の作成(2013年度より)	C	C	C	C	C
3. ファカルティ・デベロップメント(FD)活動を通じて教員の資質向上を図る。	→研究科の授業改善報告を取り入れたFD研修会の実施(年2回)。	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教員組織編成方針については、研究科副委員長を中心に教員人事委員会(研究科)にて緩やかに議論が始まっているが(2014年5月)、いまだ策定には至っていない。学部教員編成と強く関連することから、学部における一定の結論を待っている状態であったが、学部においては策定を完了し、2013年度以降の人事に活かされる予定である。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 策定は完了しておらず、結果の検証が可能な段階にない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究科教員(大学院教員)は学部の教員から任用されることを踏まえ、学部における教員編制方針の運用開始(2013年度)を受けて、さらに研究科教員に求められる資質は何であるかを検討し、研究科の方針策定に活かしていく。	☆
		その他	☆

目標2	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科における教員組織編制方針の明文化を受けて、教員組織検証制度について検討を開始する予定である。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 制度の整備は完了しておらず(まずは研究科における編制方針策定の議論を行っている)、結果の検証が可能な段階にない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 制度の整備は完了しておらず、伸長策、改善策について検討が可能な段階にない。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた FD研修会(研究科)は専任(年2回)／非常勤教員(年1回)ごとに開催している(学部と合同で開催)。修士論文・博士論文の審査基準について(2013年度)、口頭試問評価シートについて(2014年度)など、研究科の独自課題にも言及している。前段階としては本研究科授業における現状の把握と改善に係る課題の洗い出しが必要であり、そのひとつの方法として「学生による授業評価の実施」が挙げられるが、回収率は2012年度春学期16.0%、秋学期12.0%、2013年度春学期36.0%、秋学期12.0%である。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か シラバスにおける成績評価基準、論文審査基準などFD研修会(研究科)で議論となった課題が、内規や施策運用方法の改正として結実するなど、ある程度有機的なFDを展開することができている。しかしながら、現状把握の一手段である「学生による授業評価」の回収率について研究科副委員長を中心に向上の方策を検討し、学生へ協力を呼び掛けているが、現段階で向上は難しい。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「学生による授業評価」のほか、毎年度提出される院生会(院生による自治組織)からの「研究環境に関する要望書」、さらには「授業の相互見学」などの新しい手法も取り入れて課題を洗い出し、さらなる充実策を検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆